

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 家庭 科目 保育基礎

教科： 家庭 科目： 保育基礎 単位数： 2 単位
対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組 自由選択
教科担当者： 本間
使用教科書：（ 保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ ）

教科 保育基礎 の目標：
【知識及び技能】実践的・体験的な活動や対話的な活動を通して、多様な価値観や知識・技術を身に着ける。
【思考力、判断力、表現力等】生活の充実向上を生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的に家庭者地域の生活を創造する資質・能力を育成する。
【学びに向かう力、人間性等】保育の基礎基本の知識・技術を学び、生徒の実生活に取り入れられるようにし、知識・技術の定着を図る。

科目 保育基礎	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
・子どもについて理解している。 ・保育者になるにあたり、どのような保育が必要なのか、どのような保育者が望まれるのかを理解している。	・子どもの個人差を考慮しながら保育者としてどのように関わるかを考える。
【学びに向かう力、人間性等】	・自分が保育者になったときにどのように子どもに関わり、支援していくかを考える。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 単元：子どもの保育 【思考力、判断力、表現力等】 保育とは何なのか、子どもとの関わり方を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 どのような保育者を目指すのかを考える。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【思考・判断・表現】 ・様々な保育の形を理解し、働き方を考えられる。 ・保育の方法を理解し、個別の対応の仕方を考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・多様な価値観を通して自分の将来について考えようとしている。 ・自己を見つめ、自己の課題を見出そうとして			○	6
	B 単元：子どもの発達 【知識及び技能】 ・子どもの発達について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・個人差のある子どもの発達に応じた対応の仕方を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・どのような保育者を目指すのかを考える。		【知識・技能】 ・子どもの発達の順序性や個人差について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・個人差を考慮しながら全体の保育をどう行えばいいかを考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・保育者として様々な子どもたちとどう向き合いたいかを考える。	○	○	○	2
	C 単元：子どもの生活 【知識及び技能】 ・子どもの健康について理解する。 ・生活習慣や社会的な生活習慣について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 子どもの生活について学んだことを保育者になったときにどう活かすかを考える。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ①子どもの生活習慣や社会的な生活習慣について理解している。 ②子どもの健康について理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①自分が保育者になったときに子どもの生活や健康を整えるためにどんな支援が必要かを考える。			○	4
	定期考査			○	○		1

2 学 期	E 単元：子どもの福祉 【知識及び技能】 ・保育に見る児童観を理解している。 ・児童福祉の理念と児童福祉施設について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・様々な福祉の形を知り、子どもに応じた福祉とは何か考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・さまざまな福祉について自分が保育者になったときにどのように子どもを守っていくか考える。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・子どもという存在がどのように確立されてきたかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・様々な問題を抱える子どもにどのような福祉的支援を与えられるかを考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・子どもの福祉に関して、主体的にどのように関われるかを考えられているか。	○	○	○	10
	F 単元：子どもの文化 【知識及び技能】 ・子どもの文化について理解している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・子どもの文化を織り交ぜながら保育実習での発表する出し物を練習できている。		【知識・技能】 ・子どもの文化について種類や効果について理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループで協力して主体的に発表の準備ができているか。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
3 学 期							
							合計
							131